

客席・観覧席を有するスポーツ施設の バリアフリー化の現状等に関する調査

調査概要

【調査目的】

○2015（平成27）年に策定した『建築設計標準（劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する追補版）』で示している基準等への整備状況を確認するため、スポーツ施設を対象に実態調査を実施したもの

※調査対象には、劇場、映画館等を含まない

項目	概要
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 新築のスポーツ施設について、バリアフリー化の現状を調査
調査対象施設	<ul style="list-style-type: none"> 客席・観覧席（200席以上）を有するスポーツ施設（社会体育施設、民間体育施設）で、2012（平成24）年以降に供用を開始した施設（これから供用開始予定の施設を含む） 総合運動場のように複数の施設がある場合には、それぞれの施設が対象
調査期間	<ul style="list-style-type: none"> 2022（令和4）年8月23日から9月26日
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ庁と国土交通省住宅局の連名で、地方公共団体に回答を依頼 Eメールにより配布、WEBフォームまたはEメールにより回収
回答数	<ul style="list-style-type: none"> 有効回答：174

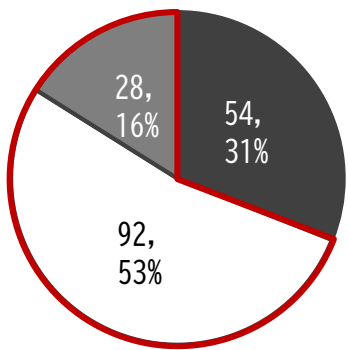
結果概要

施設概要 (n=174)

① 供用開始年度、客席・観覧席の総数、施設用途

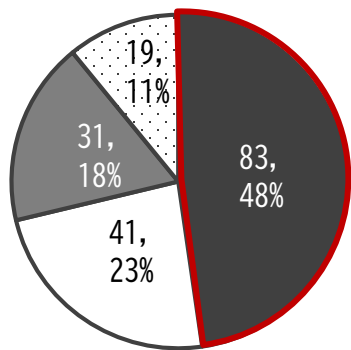
- 2017年以降に供用開始された施設が約7割を占める。
- 客席・観覧席の総数（固定席の最大数）は、1,000席未満の施設が約5割を占める。
- 用途は、「体育館・アリーナ」が最も多く、「その他」の内容としては、多目的運動場・総合運動場、ソフトボール場、武道館、カーリング場、水上競技場、屋内スケート場、その他となっている。
- 客席・観覧席の総数との関係を見ると、陸上競技場、球技場兼陸上競技場、野球場において、5,000席以上の施設の割合が高い。

■ 供用開始年度
(予定を含む)



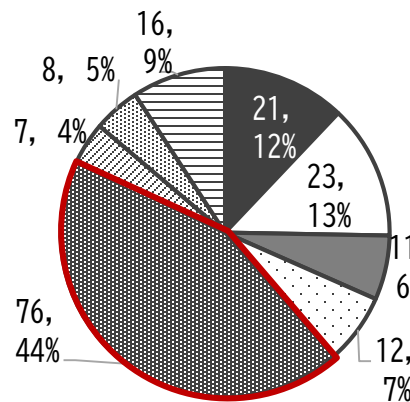
- 2012～2016年
- 2017～2021年
- 2022年以降

■ 客席・観覧席の総数
(固定席の最大数)



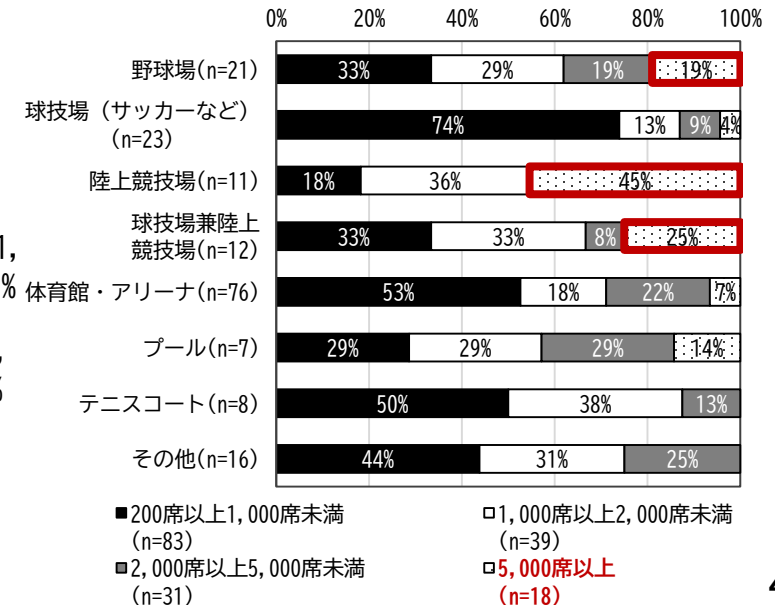
- 200席以上1,000席未満
- 1,000席以上2,000席未満
- 2,000席以上5,000席未満
- 5,000席以上

■ 施設用途



- 野球場
- 球技場 (サッカーなど)
- 陸上競技場
- 球技場兼陸上競技場
- 体育館・アリーナ
- プール
- テニスコート
- その他

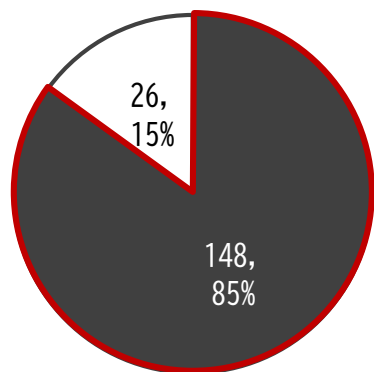
■ 施設用途別の
客席・観覧席の総数 (固定席の最大数)



車椅子使用者用客席・観覧席の有無 (n=174)

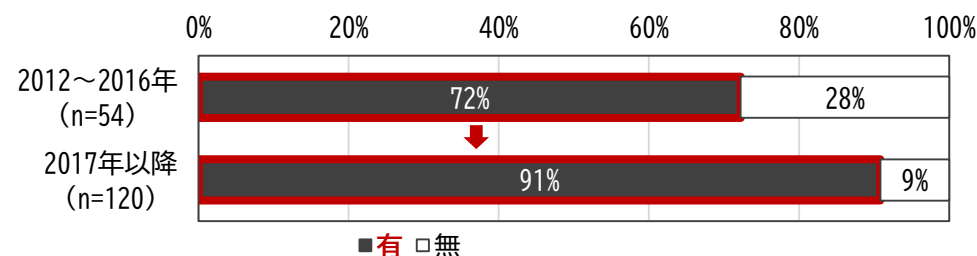
- 車椅子使用者用客席・観覧席のある施設が全体の85%。
- 2017年以降、車椅子使用者用客席・観覧席のある施設の割合が高くなっている。
- 客席・観覧席の総数が多いほど、車椅子使用者用客席・観覧席のある施設の割合が高くなる。

■車椅子使用者用客席・観覧席の有無

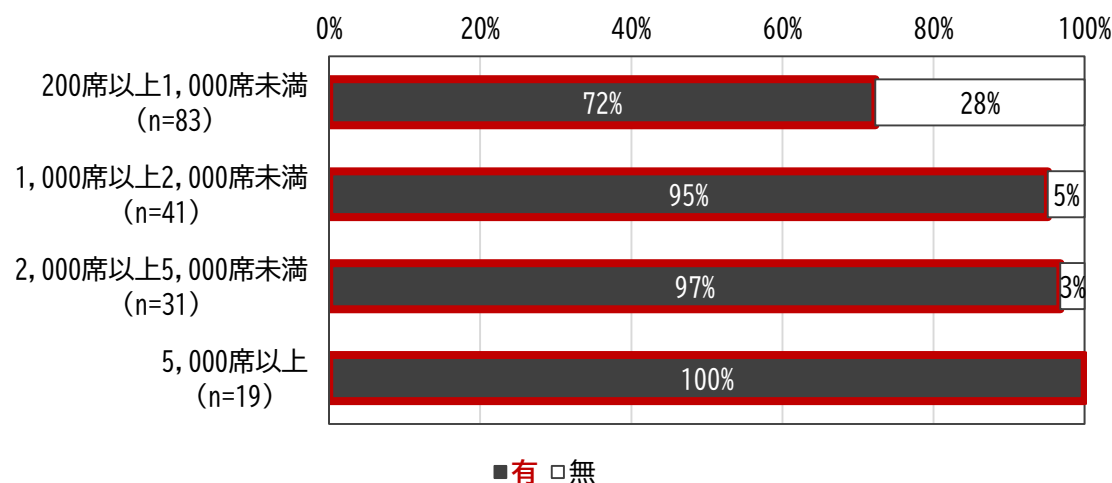


■有 □無

■車椅子使用者用客席・観覧席の有無 (建設年別)



■車椅子使用者用客席・観覧席の有無 (客席・観覧席の総数 (固定席の最大数) 別)

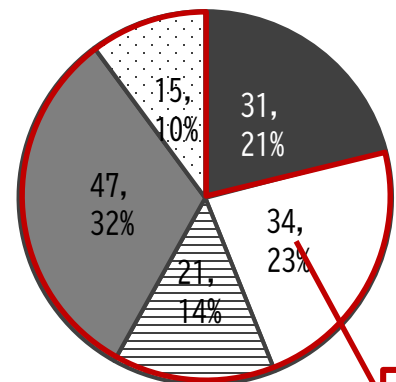


車椅子使用者用客席・観覧席の状況 (n=148)

①総数に占める割合

- 約8割の施設で、総客席数の0.5%以上の車椅子使用者用客席・観覧席が確保されている。
- 2017年以降に限ると、0.5%以上設置されている施設の割合が8割を超える。
- 車椅子使用者用客席・観覧席の設置数の誘導基準への適合率は約3割。

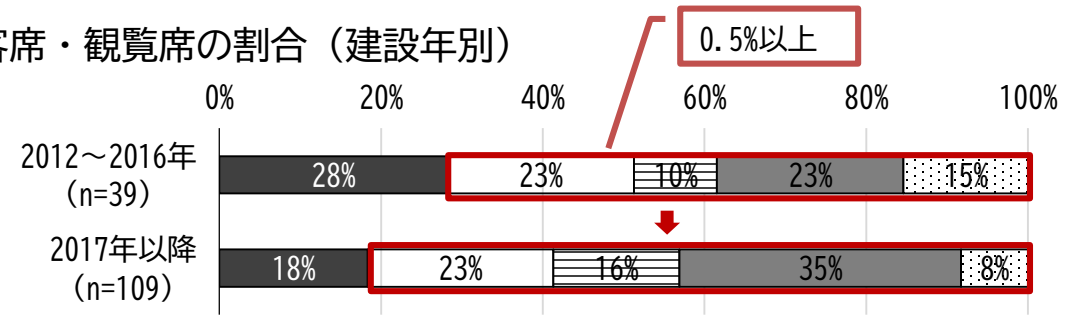
■車椅子使用者用客席・観覧席の割合



- 0.5%未満
- 0.5%以上0.75%未満
- ▨0.75%以上1.0%未満
- 1.0%以上2.0%未満
- 2.0%以上

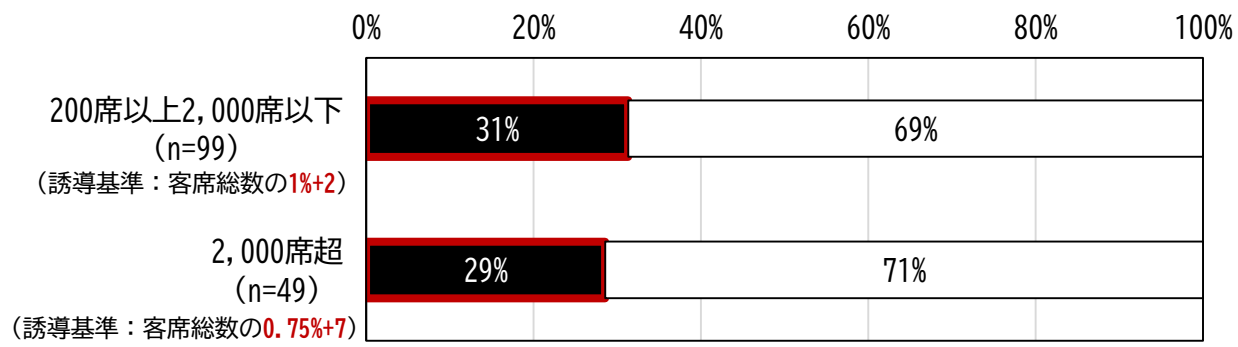
0.5%以上 : 79%

■車椅子使用者用客席・観覧席の割合 (建設年別)



- 0.5%未満 □0.5%以上0.75%未満 ▨0.75%以上1.0%未満 ■1.0%以上2.0%未満 □2.0%以上

■車椅子使用者用客席・観覧席の設置数の誘導基準への適合率



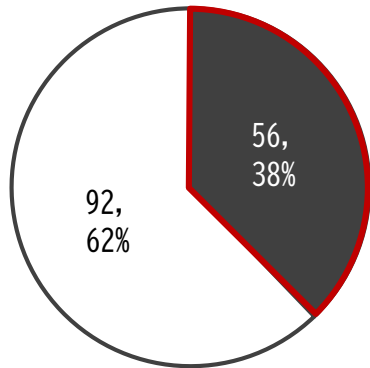
- 適合 □不適合

車椅子使用者用客席・観覧席の状況 (n=148)

②車椅子使用者の同伴者席の有無 (n=148)

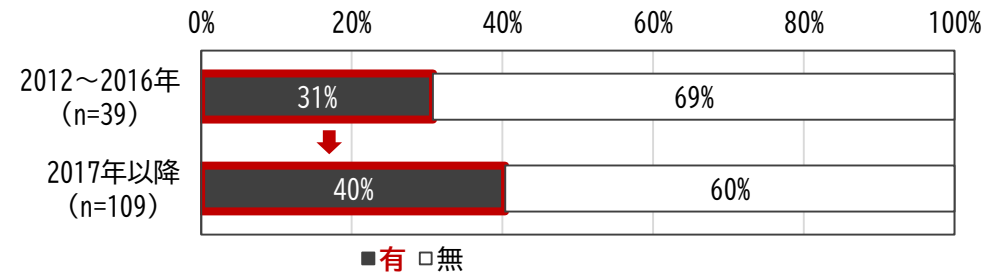
- 同伴者席を設けている施設が約4割。
- 2016年以前より2017年以降の方が、同伴者席を設けている施設の割合が高い。
- 客席・観覧席の総数が多いほど同伴者席を設けている割合が高く、5,000席以上では、約7割を占めている。

■車椅子使用者の同伴者席の有無



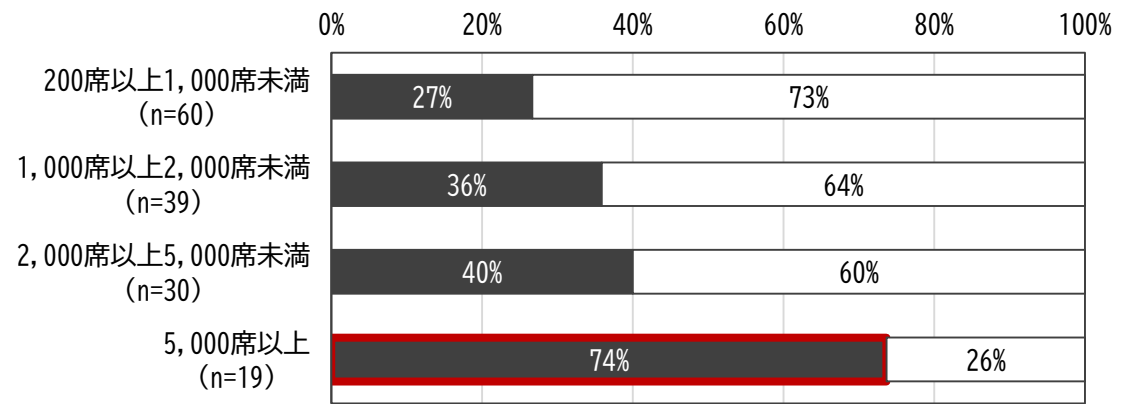
■有 □無

■車椅子使用者の同伴者席の有無 (建設年別)



■有 □無

■車椅子使用者の同伴者席の有無 (客席・観覧席の総数 (固定席の最大数) 別)

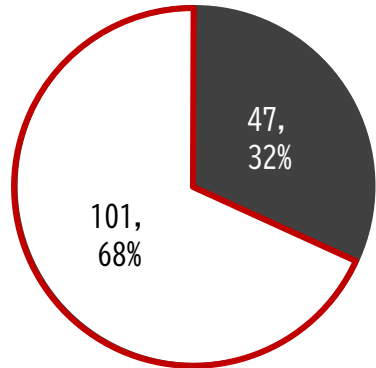


■有 □無

③まとめり・分散の状況

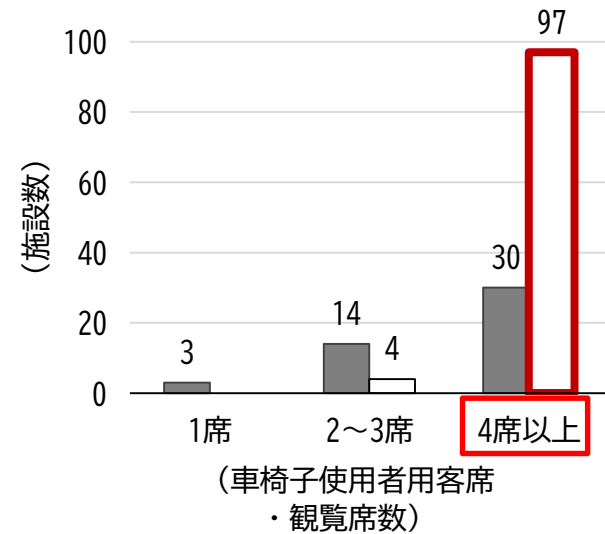
- 車椅子使用者用客席・観覧席を2か所以上に分散して配置している施設が約7割。
- 車椅子使用者用客席・観覧席を4席以上設ける場合に、分散配置となる割合が高くなる。

■車椅子使用者用客席・観覧席のまとめり・分散



- 1か所にまとめて配置
- 2か所以上に分散して配置

■車椅子使用者用客席・観覧席のまとめり・分散
(客席・観覧席の総数(固定席の最大数)別)

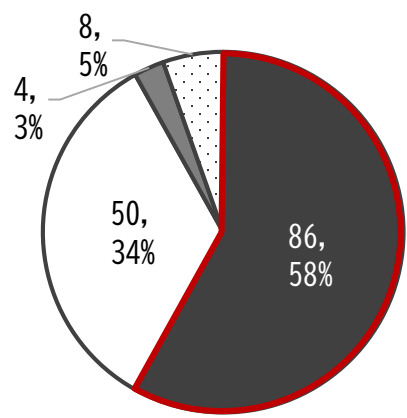


- 1か所にまとめて配置
- 2か所以上に分散して配置

④ サイトラインの確保への配慮

- 「前列の観客が座っていれば確保できている」を含めると、サイトラインを確保できている施設が約6割を占める。
- 客席・観覧席の総数が多くなるほど、サイトラインを確保できている施設の割合が高くなる。

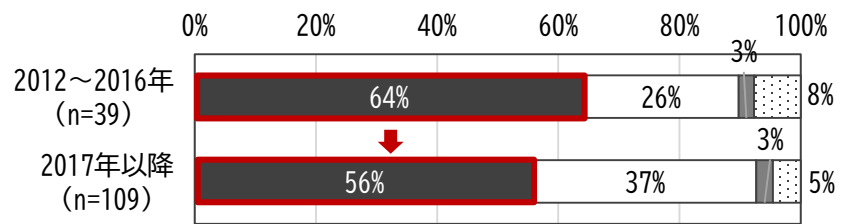
■ サイトラインの確保への配慮



- 前列の観客が立ち上がった場合でも確保できている
- 前列の観客が座っていれば確保できている
- いいえ (確保できていない)
- わからない

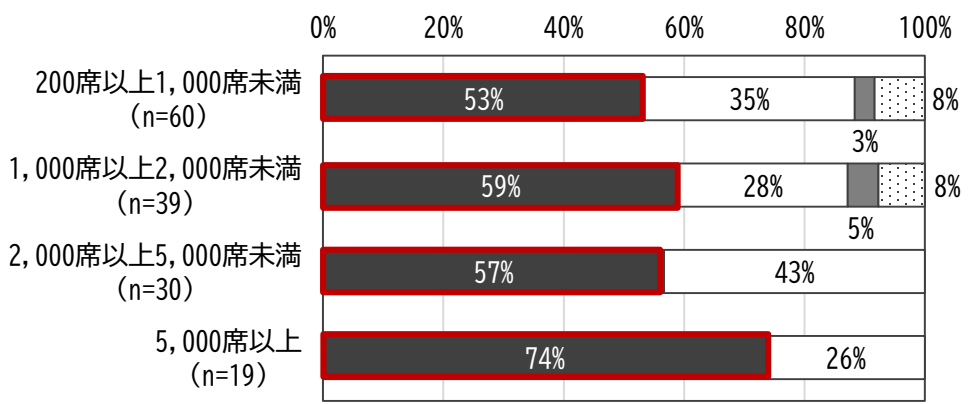
■ サイトラインの確保への配慮 (建設年別)

- 前列の観客が立ち上がった場合でも確保できている
- 前列の観客が座っていれば確保できている
- いいえ (確保できていない)
- わからない



■ サイトラインの確保への配慮 (客席・観覧席の総数 (固定席の最大数) 別)

- 前列の観客が立ち上がった場合でも確保できている
- 前列の観客が座っていれば確保できている
- いいえ (確保できていない)
- わからない

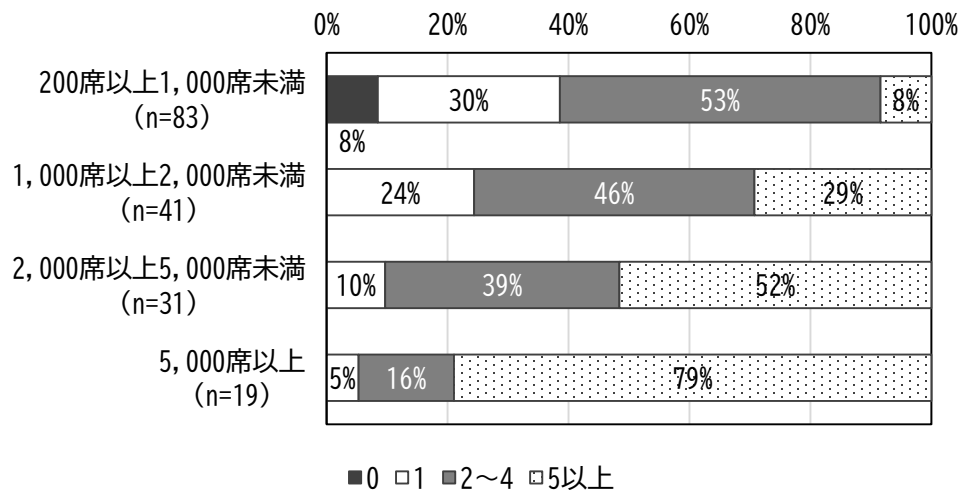


車椅子使用者への配慮 (n=174)

①車椅子使用者用トイレの数

- 客席・観覧席の総数が多いほど、また車椅子使用者用客席・観覧席の数が多いほど、車椅子使用者用トイレの設置数も多くなる。
- 車椅子使用者用客席・観覧席に対する車椅子使用者用トイレの設置数は、概ね3～7席に対して1か所の整備となっている。

■車椅子使用者用トイレの数
(客席・観覧席の総数(固定席の最大数)別)



■車椅子使用者用客席・観覧席の数に対する
車椅子使用者用トイレの設置数
(車椅子使用者用客席・観覧席を設置している施設が対象, n=148)
(全施設における設置数の総和で計算)

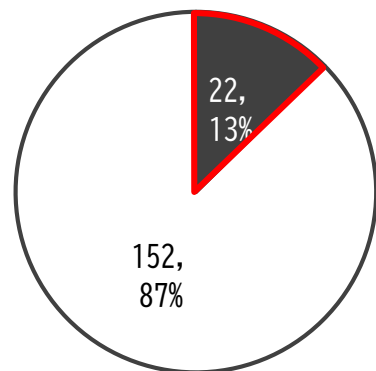
※建築設計標準では、**15席に1か所**

車椅子使用者用客席・観覧席の数	車椅子使用者用トイレの数
1~15席(n=99)	2.9席に1か所
16~50席(n=38)	3.7席に1か所
51席~(n=11)	7.2席に1か所

①聴覚障害者用集団補聴装置の有無

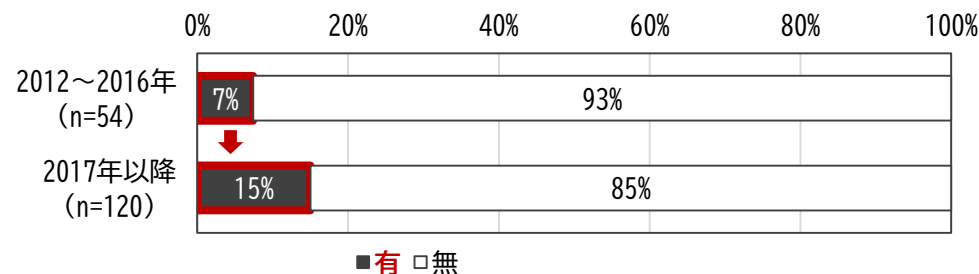
- ・ 集団補聴装置が設置されている施設は約1割。
- ・ 2017年以降、 集団補聴装置が設置されている施設の割合が高い。
- ・ 客席・観覧席の総数が多くなるほど、 集団補聴装置が設置されている施設の割合が高くなる。

■聴覚障害者用集団補聴装置の有無設備の有無

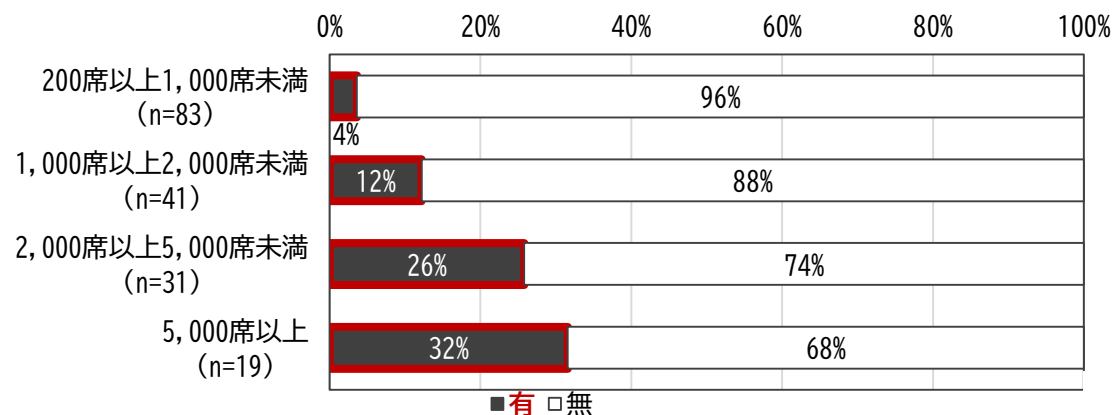


■有 □無

■聴覚障害者用集団補聴装置の有無 (建設年別)



■聴覚障害者用集団補聴装置の有無 (客席・観覧席の総数 (固定席の最大数) 別)

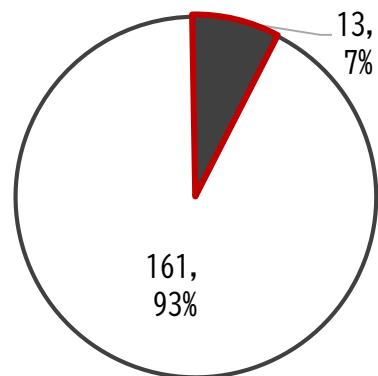


視覚障害者への配慮 (n=174)

①客席・観覧席の座席番号等の点字併記の有無

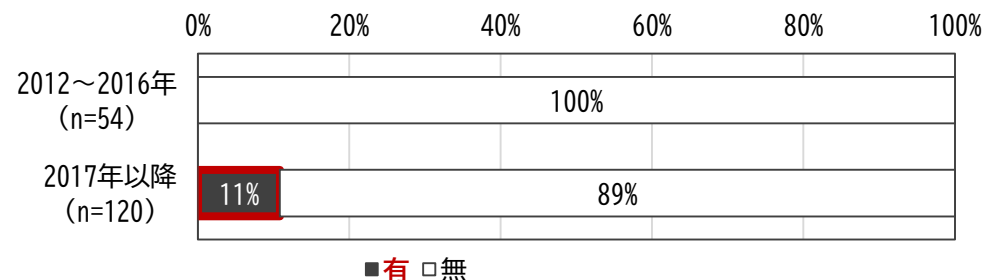
- 客席・観覧席の座席に座席番号等の点字表記がある施設は約1割弱。
- 2012～2016年は0だが、2017年以降では座席番号等の点字表記のある施設の割合が1割程度となっている。
- 客席・観覧席の総数が多くなるほど、座席番号等の点字表記のある施設の割合が高くなる。

■客席・観覧席の座席番号等の点字併記の有無



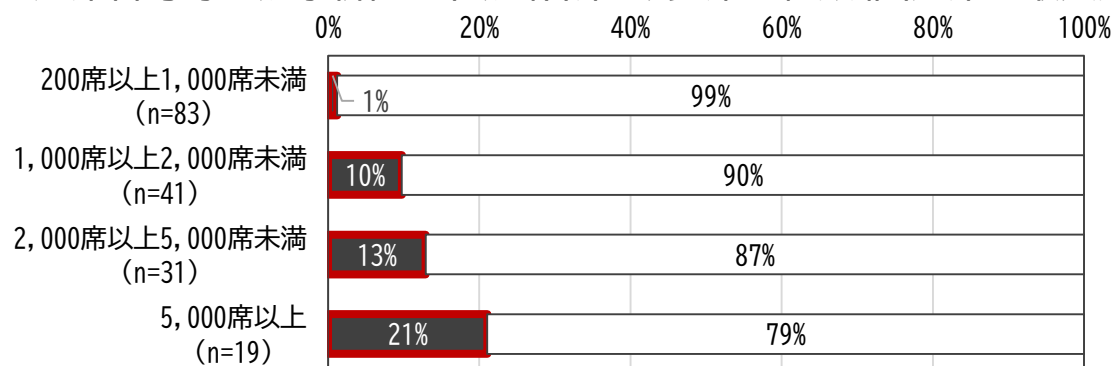
■有 □無

■客席・観覧席の座席番号等の点字併記の有無 (建設年別)



■有 □無

■客席・観覧席の座席番号等の点字併記の有無 (客席・観覧席の総数(固定席の最大数)別)

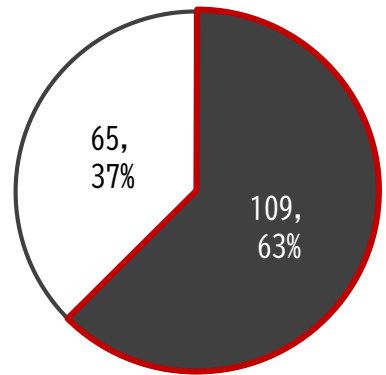


■有 □無

①授乳室（またはベビーカー置場）の有無

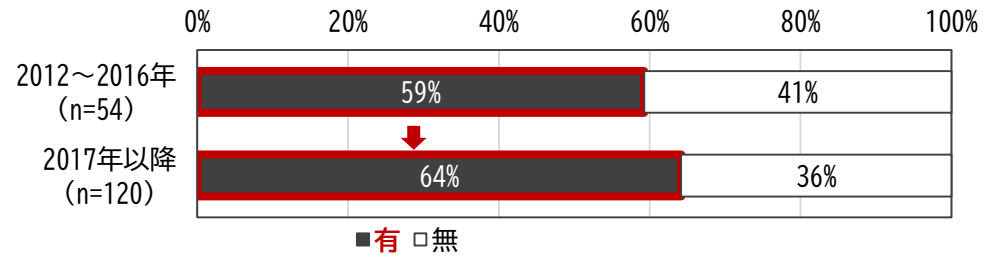
- 授乳室（またはベビーカー置場）のある施設は約6割。
- 2016年以前より2017年以降の方が、授乳室（またはベビーカー置場）のある施設の割合が高い。
- 客席・観覧席の総数が多くなるほど、授乳室（またはベビーカー置場）のある施設の割合が高くなる。

■授乳室（またはベビーカー置場）の有無

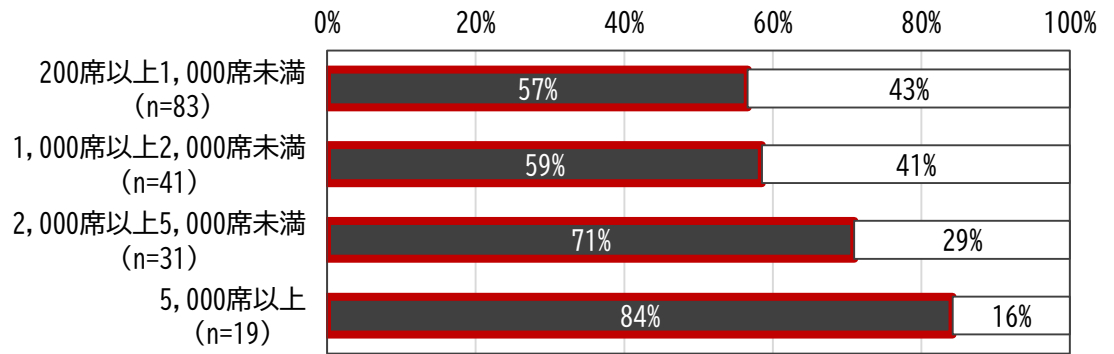


■有 □無

■授乳室（またはベビーカー置場）の有無（建設年別）



■授乳室（またはベビーカー置場）の有無（客席・観覧席の総数（固定席の最大数）別）

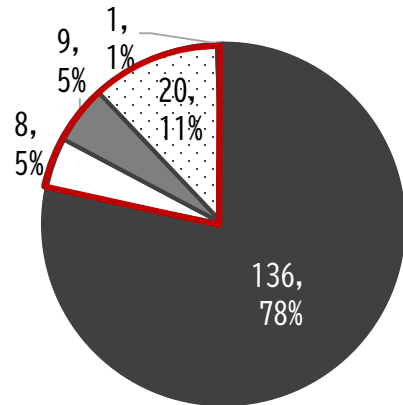


■有 □無

①実施状況、回数

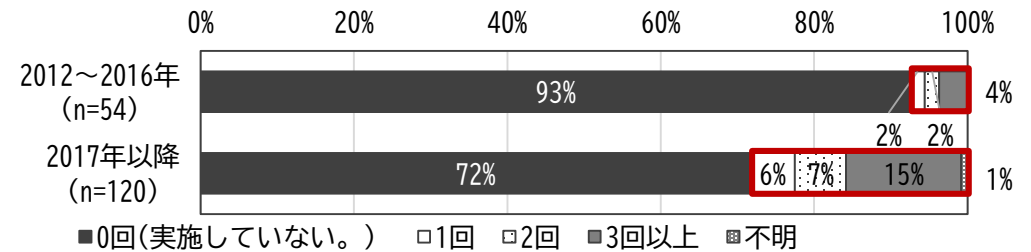
- ・ バリアフリー整備についての意見聴取やワークショップが行われた施設は約2割。
- ・ 2017年以降、当事者からの意見聴取やワークショップが行われた施設の割合が高い。
- ・ 客席・観覧席の総数が多くなるほど、当事者からの意見聴取やワークショップが行われた施設の割合が高くなる。

■ 高齢者・障害者等からの意見聴取、ワークショップの有無



- 0回(実施していない。)
- 1回
- 2回
- 3回以上
- 不明

■ 高齢者・障害者等からの意見聴取、ワークショップの有無 (建設年別)



■ 高齢者・障害者等からの意見聴取、ワークショップの有無 (客席・観覧席の総数(固定席の最大数)別)



- 0回(実施していない。)
- 1回
- 2回
- 3回以上
- 不明

①実施方法

- 「設計図・模型などの資料による検証」が、最も多い。
- 「その他」として以下の回答があった。
 - ・会議内での意見聴取
 - ・アンケート
 - ・アンケートとウェブサイトの併用
 - ・VR体験
 - ・視覚障害者用の館内点字箇所の確認
 - ・現場でのヒアリング等、現場段階での現地確認
 - ・他市施設の写真による検証
 - ・他施設の好事例を資料集や写真等により検証
 - ・事業概要の説明、口頭による説明
 - ・完成内覧会

②参加者の属性

- 主に以下の回答があった。
 - ・地域の障害者団体、高齢者団体
 - ・福祉協議会の職員、ボランティア団体
 - ・市民全般
 - ・地域の障害者スポーツ関係団体（団体の職員を含む。）
 - ・障害者スポーツの有識者
 - ・学識経験者
 - ・建築関係団体
 - ・スポーツ施設基本計画等の検討・策定委員会の委員
 - ・地域のバリアフリー化に関する検討委員会・推進協議会の委員

■実施方法（複数選択可）



③意見の反映

- 意見聴取・ワークショップを行った37施設全てが「結果を計画・設計に反映した」と回答。
- 具体的な反映内容として、主に以下の回答があった。

■客席、観覧席

- 車椅子利用者用観覧スペースの設置
- 車椅子利用者用観覧席の仕様、サイトライン
- 車椅子利用者用観覧席の分散配置の拡充
- 観覧席へのリフト設置
- 2階の観覧席横のフリースペースを車椅子用観覧席に利用する。
- 点字シールの設置
- 集団補聴設備の設置
- 集団補聴設備エリアの複数化

■エレベーター

- エレベーターの大型化
- 位置を体育館入口付近へ変更
- 2方向から乗降可
- 閉じ込め対策
- 防犯窓の設置

■動線

- 大会等の混雑緩和を図るためのバス停の設置
- エントランスに近い場所に多目的駐車場を配置
- スロープの形状・勾配
- 動線計画の改良

■案内表示など

- 多言語対応・ピクトグラム・コントラスト
- デジタルサイネージ
- デジタルサイネージへ異常テロップ表示の追加
- 大型モニター
- サイン計画

■誘導など

- 視覚障害者誘導ブロックの敷設・追加、音声案内等
- 誘導・注意喚起のための視覚障害者誘導ブロックや手すり等の設置位置、サインのあり方等

※協議・対応中のものを含む。

②意見の反映 (続き)

■駐車場

- ・ おもいやり駐車場の追加 5台

■トイレ

- ・ 車椅子利用者用トイレの設置、追加、各階設置
- ・ 電動車椅子対応のサイズ
- ・ 機能分散および機能別の配置の工夫
- ・ オストメイトトイレの設置
- ・ 設備仕様サイン：配置・大きさ・書体
- ・ フラッシュランプ
- ・ 音声案内装置
- ・ LGBT対応への配慮(トイレ扉向きの変更)
- ・ LGBTQ対応トイレのサイン

■更衣室

- ・ ロッカーの施錠形式の配慮
- ・ シャワールーム内で車椅子が回れるように設計に反映
- ・ 多目的更衣室に大型ベッドを設置

■その他

- ・ 滑りにくいプールサイド
- ・ 災害時における救護活動に対応した施設
- ・ カームダウン専用室の設置
- ・ 空調設備の設置
- ・ 電動車椅子用コンセント
- ・ 光警報装置の設置
- ・ 非常ボタンの位置
- ・ 音声案内装置の設置
- ・ 手すりの設置
- ・ 補助犬トイレの追加
- ・ 紹介された障害者スポーツ施設を視察し、今後の設計に反映する予定

■ソフト対応など

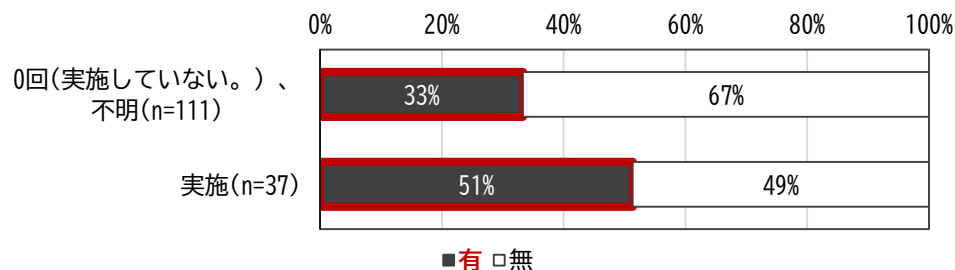
- ・ 濡れてもよい車椅子の常備
- ・ 駐車場に到着後、利用施設まで施設備え付けの車椅子で送迎の手助けをしてほしい

※協議・対応中のものを含む。

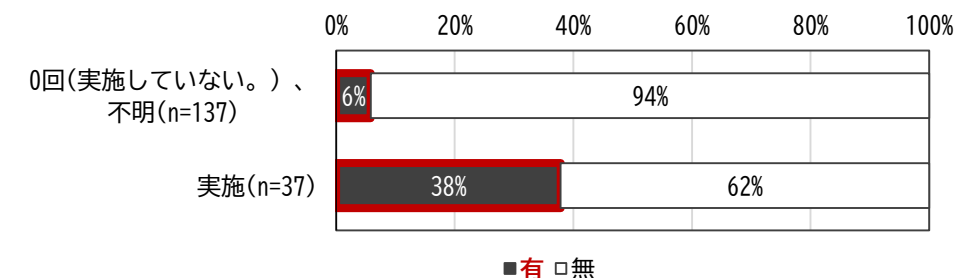
①意見聴取・ワークショップの有無と、施設整備の状況

- 車椅子使用者の同伴者席、聴覚障害者用集団補聴装置、客席・観覧席の座席番号等の点字併記のある施設の割合は、意見聴取・ワークショップを実施している方が、実施なしより高い。

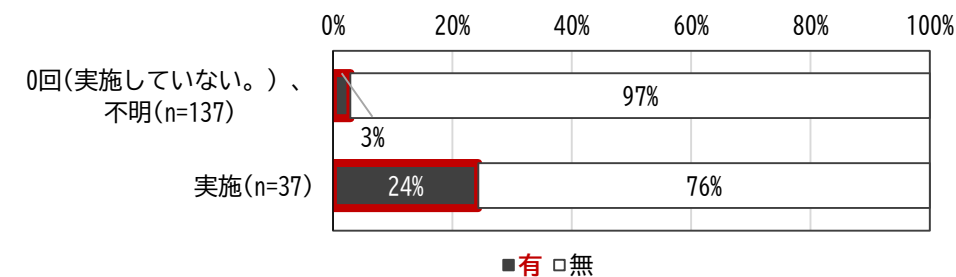
■車椅子使用者の同伴者席の有無 (n=148)



■聴覚障害者用集団補聴装置の有無 (n=174)



■客席・観覧席の座席番号等の点字併記の有無 (n=174)



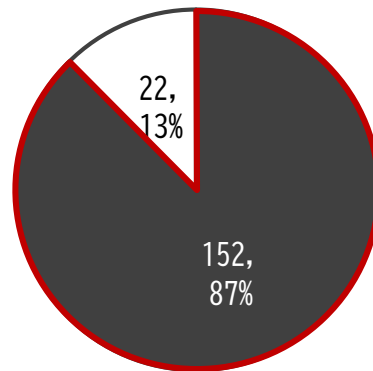
①WEBサイトの有無

- WEBサイト有は、約9割。

②WEBサイトでのバリアフリー情報提供の有無 (n=152)

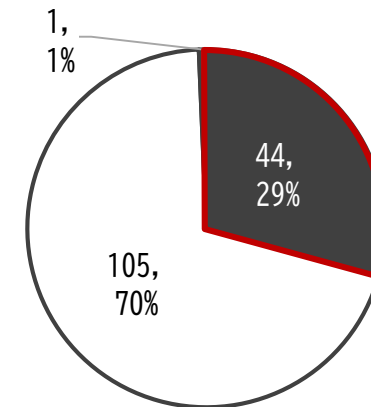
- WEBサイト有のうち、バリアフリー情報を掲載しているのは、約3割。

■WEBサイトの有無



■有 □無

■WEBサイトでのバリアフリー情報提供の有無

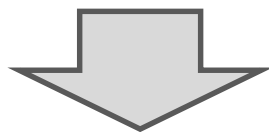


■掲載している
□掲載していない
■不明

まとめ、今後の方向性

<まとめ>

- 車椅子使用者用客席・観覧席のある施設は、約9割となっている。
- 車椅子使用者用客席・観覧席が総客席数の「0.5%以上」設置されている施設が約8割。約3割の施設で、車椅子使用者用客席・観覧席の設置数について誘導基準に適合。
- 高齢者、障害者等に配慮した整備が行われた施設の割合は、「劇場、競技場等の客席・観覧席を有する施設に関する建築設計標準追補版」（2015.7）後の2017年以降に高まっており、また客席・観覧席数が多いほど高くなっている。
- 意見聴取・ワークショップを実施した施設は約2割、実施した施設の割合は2017年以降に高まり、また客席・観覧席数が多いほど高くなっている。
- 意見聴取・ワークショップを実施した施設では、その結果が計画・設計に反映されている。
- 意見聴取・ワークショップは、高齢者、障害者等に配慮した整備に効果がある（一部の項目で検証）。
- WEBサイトのある施設でバリアフリー情報を掲載している施設は、約3割となっている。



<今後の方向性>

- 調査結果（近年の動向、意見聴取・ワークショップの効果等）について、地方公共団体や事業者、設計者等にフィードバックし、スポーツ施設のバリアフリー化を更に促進。